

令和7年度 小地域福祉活動セミナー

		亀沢四丁目町会
団体概要		日常の見守りである「みまもりネットワーク」は毎月のサロンと年に2回みまもり訪問をおこなっている。高齢者世帯や気になる方を活動者で連携しながら見守りをしている。気になる方がいれば戸別訪問後にメンバー同士で共有し、その都度支えあいマップを更新している。 サポート隊「かめつぷ」では災害時の想定した避難シミュレーションも行った。
組織のベースについて (活動主体)		見守り活動は「亀四みまもりネットワーク」、災害時のサポート隊は「かめつぷ」と分かれた組織。 みまもりネットワークは毎月のサロンと年2回の見守り訪問。 サポート隊は町会の生活安全部が主体となっている。 メンバーはお互いに重複し、活動時にもお互い声を掛け合い連携している。
立ち上げ について	きっかけ	ふれあいサロンから小地域福祉委員会に移行する時期に、社協から「来てもらうサロン」から「見守りの小地域福祉活動」へ移行して欲しいというアプローチにより始まる。当時の町会長も防災意識が高く、月1回、1か月半に1回くらいのペースで説明会を開催。祭礼の人やフォーレディースには口コミの強い人がいたため、そのあたりからも集まった。
	活動者の探し方 引き込み方 声のかけ方	小地域福祉委員会とは別組織の若い男性陣で構成されている自主防災組織「かめつぷ」と連携。 かめつぷは町会内に登録カードを2000枚ポスティングしたり、説明会で支援者を募る。また、ジャズフェスティバル等若い人が集まるイベントでも周知を行った。
	見守り対象者の選び方	回覧板や町会のお便りにて、手上げ方式で何度かおこなっている。 また、口コミでつながる方も居る。
	立ち上げてから活動までの流れ	他の活動団体を見学されながら、民生委員が中心となりサロンから始まった。その後、社協からのすすめもあり日常の見守りも行う小地域福祉委員会へ移行した。
	始めるまで難しかったこと	見守りを意識する事をメインに活動していき、町会内の祭礼に参加されている方、特に地域のパワーがある方の呼び込みをした。 何をするのか説明がしにくく、みんなでどうしたら良いか都度話し合いを行った。
活動 について	見守りの方法工夫や特徴	町会内を4つの地区に分け、基本、担当する方に行ってもらう。戸別訪問前に「〇月〇日〇時頃お伺いします」の内容に、名前と連絡先を記載した内容の手紙を投函している。訪問の際には生活全般のお困り事はないか聞き取りしている。また、不在者宅にはチラシをポスティングした。 協力いただける要配慮者の方と、一時集合場所への避難訓練（シミュレーション）も行った。
	活動者同士の情報共有	訪問前にグループLINEでめばしい方、気になる方がいるか共有し、情報をもらっている。 訪問前に情報を共有し、戸別訪問後は議事録を作成し、参加できなかった方へも共有。都度、支えあいマップに気になる方を落としこんで更新をしている。
	個人情報の取り扱い	民生委員の持っている名簿にある方は、民生委員より見守りに関する連絡を入れている。
活動が始まってからの 地域の変化・地域からの声		以前より全く助けてとも言ってくれない、いらぬと言われ、全く実態も把握できなかった人が、他の人から亀四の見守りしてもらった方が良いんじゃないと言われて依頼された事がある。地道な地域への説明の結果が実った。 町会役員の防災へのハードルが下がり、協力的になってきた。協力することが普通のこととなってきた。
その他		今までの体制を維持しつつ、今後の新たな担い手・後継者問題など含め、地域の子ども会など別資源を巻き込んで、新しい方の意見も今後、取り入れていかなければならない。 できない、無理、そういったネガティブな気持ちではなくて、みんなで楽しくやってみようという気持ちをもった町会長の熱意で、小地域福祉委員会としての見守り活動を開始。